

チイちゃん料理

中学二年の春、チイちゃんという女の子が我が家に遊びにきました。チイちゃんは一ツ年上ですが、病気療養で長く入院していたため、新年度、同じクラスになったのです。



お昼になり、一緒にご飯を作って食べる事になりましたが、チイちゃんは料理を全くしたことがなく、包丁の持ち方一つから教える必要がありました。両親が共働きで日頃から台所に立つ機会が多かった私は、手際の悪いチイちゃんにイライラし、「こんなことも出来ないの?」と口調もきつく、仕舞には彼女の問いかけを無視する始末。ところが、チイちゃんは私の嫌味な態度を全く気にせず、目をキラキラ輝かせながら初めての料理に夢中です。普段何気なくやっている料理の何がそんなに面白いのか、私はさっぱりわかりませんでした。

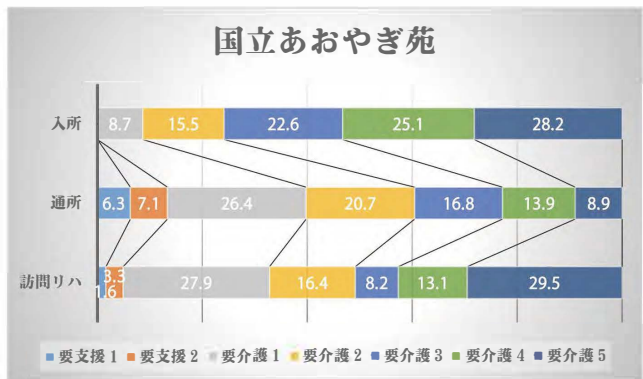
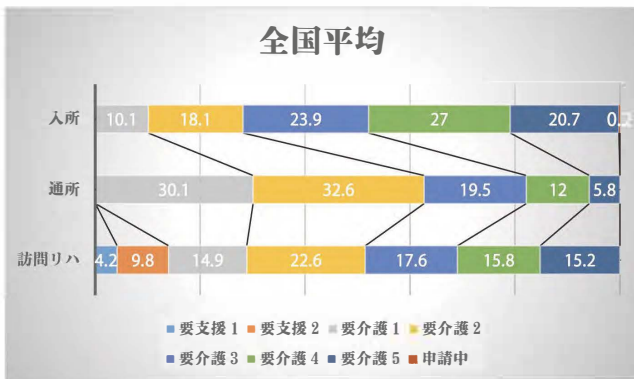
翌日、彼女のお母様が我が家にやって来ました。チイちゃんは初めての料理を大興奮で家族に報告し、家でもっと料理をしてみたい、と話したそうです。お母様は、身体が弱いからと家のことを何もやらせなかったことを詫び、深々と頭を下げられました。「いろいろ教えて頂いてありがとうございます」と大きな菓子折りを差し出すお母様を前に、私は自分の態度を省みて、恥ずかしくて顔を上げる事が出来ませんでした。

その後、チイちゃんは入退院を繰り返し、一緒に料理をする機会は二度とありませんでした。何度か見舞いにいきましたが、生活感のない白い病室を訪れる度に、彼女にとって、退院できた短い期間がどんなに大切なものだったか、改めて知らされました。自分では当たり前と思っていた日常の営みも、当たり前前に手に入らない人も大勢いる…ずっと忘れられないチイちゃんとの出来事は、この職業に携わる一つのきっかけになったかもしれません。

作業療法士 丸藤 京子

特集 国立あおやぎ苑 ここが気になる!! 第1回 国立あおやぎ苑の入所、通所、訪問利用者の介護度の割合が気になる!

国立あおやぎ苑の平成 27 年度における入所、通所、訪問、各利用者の人数と介護度の割合を表にまとめました。



入所では、要介護5と4の合計が、国立あおやぎ苑では53%、全国平均は47.7%なので、全国平均より介護度の高い利用者の割合が多いことが分かりました。

通所では、国立あおやぎ苑で要支援1・2が13%、要介護1が26%、全国平均は要介護1が30.1%ですが、利用者全体における要支援者の割合は調べられませんでした。

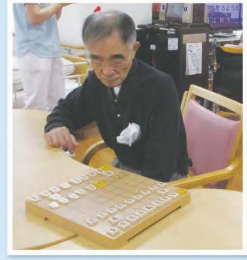
訪問では、介護度の高い利用者(要介護5、4)と介護度の低い利用者(要支援、要介護1、2)がほぼ同数となっています。通所の利用が困難な方や、自身のライフスタイルを持ちながらリハビリを行う方が多いためと考えられます。

今回の調査結果は利用者の年齢を考慮していないため、国立あおやぎ苑利用者の年齢層は、全国平均よりも高いかもしれません。次回は利用者の年齢層とその割合について調べたいと思います。



文責：小林 宏樹

レクリエーション 紹介 第1回



夏の暑さに負けそうな今日この頃ではありますが、国立あおやぎ苑縄文棟の通所では囲碁・将棋チームに分かれ男性陣の熱き戦いが日々繰り広げられています。

通所ではレクリエーションの一環として、空き時間に自由に囲碁や将棋を楽しんで頂いています。勝負中の真剣な眼差しはいつも穏やかな顔から一変、勝負師の顔へと変貌します。最近では将棋や囲碁を楽しまれる利用者の方やそれを見学される方も増えており、今後は囲碁・将棋大会を開催することも検討中です。利用者の方が一日楽しく過ごして頂けるよう、今以上にレクリエーションに力を入れていきたいと思ひます。

通所リハビリ課 石川 香織

あおやぎ徒然草13

いよいよ夏本番。じっとして居ても汗が出る季節なのに、私達の苑では温度調節が行き届いて居りますので、汗をかくなぞ忘れて過ごしております。暑いも寒いも知らず楽しく過ごせることは幸いです。今月は水の中の涼しい句を見つけました。

「熱帯魚青い光を藻に点ず」水原秋桜子

読むだけで美しい涼しそうな夜の光景が浮かびます。

「水槽の角を見ている金魚かな」

草野ぐり (童子)

よく金魚を見ていたのでしょう。思わず笑ってしまいます。こんな思いがけず面白いと言えるのは楽しいですね。この句も読むだけで涼しい気分になります。

暑さを乗り切っていい秋を迎えましょう。

(薔薇一輪の句集より)

山の湯や富者めきては藤椅子に
生きることしんどくないかなめくちり
万歳をせし日もありし敗戦日
連れ立ちて俳句狂ひが炎天を
送別やどの机にもトマト置き

辻 たつよ

園芸クラブ



春に土づくりから始め、現在、縄文棟玄関や既存棟屋上で実っています。今年もたくさん収穫できました。収穫した野菜は料理してみんなで美味しく頂きました。

撮影 既存棟3階 永井 敏夫 様

展示会

6月24日より3日間、展示会が行われました。ご利用者様が作られた作品はどれも素敵で、華やかな空間となりました。

多くの方々に見て頂き、大盛況で終了しました。ありがとうございました。



こころの

私のふるさと自慢

これまでリハビリ課職員、それぞれの生まれ故郷について紹介してきました。この記事を通じて初めてお話をするようになったとか、昔旅行で訪れたことがあるとか、実は同郷だったとか、様々な反響がありました。そこで、ご好評につき今号からは思い出に残る心のふるさとを紹介する「私のこころのふるさと自慢」を連載していきます。

今回紹介します私のこころのふるすとは、青春時代を過ごした茨城県龍ケ崎市です。

茨城県南部に位置し、かつて科学万博が開かれ、現在は研究学園都市として有名なつくば市の隣にあります。

関東三大奇祭の数えられる祇園祭りの撞舞(つくまい)や江戸時

代以前から商業都市として繁栄した歴史がある一方、近年は東京のベッドタウンとして新興住宅地も広がる街です。

東京の親元から離れ、少し足を伸ばせば紫峰筑波山や、坂東太郎とも呼ばれる利根川が流れる自然豊かな場所での生活は、いまでも大切な思ひです。こんなお話をしていると、ふるさとのない私も久し振りに友人を訪ねて里帰りしてみたくになります。

言語聴覚士 末岡広光



祇園祭りの撞舞



画像引用元：茨城県龍ケ崎市の公式ホームページ